

「フレッシュな感性で世界を広げ、教育を考えてみよう」……………



教育学部長
新見 治

新入生の皆さん、香川大学教育学部へのご入学を心からお祝いします。それぞれに期待のなかに不安を抱えての新しい旅立ちだと思います。慌ただしい時はやがて過ぎ、連休の頃には新しい生活のリズムが生まれるでしょう。

現代の若者に与えられた最高の贈り物といえる大学時代には、短期的な成果よりも人生の旅に向けて知識と経験を蓄積することが大切と考えます。

教育学部は海外の5大学と交流していますが、昨年12月にニュージーランドのCPIT(クライストチャーチ総合技術大学)を訪れました。長期留学中(国際英語学科での1年間の修学)の本学部生10人と交流会を持ち、英語で自己紹介し会話も弾みました。CPITの先生方から、香川大学の学生は熱心に学び生活態度もVGと評価をいただき大変嬉しく思いました。海外研修の意義が英語のスキルアップだけでなく、



「法学部で、君もきらりと光ろう」……………



法学部長
松尾 邦之

私たち法学部教職員は、四国の"国立大学"法学部として『小粒でもきらりと光る、地域に根ざした学生中心の大学』であり続けられるよう今後とも取り組む決意です。

新入生の皆さんも良く知っていることと思いますが、香川大学は「地域に根ざした学生中心の大学」であるとともに、文系理系のバランスの取れた「世界水準の教育と研究」の大学をめざしています。法学部・大学院法学研究科も四半世紀を超える歴史を刻み、法科大学院(通称:四国ロースクール)の母体となるまでに発展してきました。1学年160名と「小振り」な学部ですが、国と地方の公務員や金融・サ



「時間を有効に」……………



経済学部長
細川 滋

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

新たな学生生活に期待・希望を抱きつつ、他方では不安も抱えておられることでしょう。不安は、友人や先輩たちとの、また先生方との交流の中で、払拭されるはずで。期待・希望を膨らませていただきたいものです。

さて、経済学部では、昨年新しいコース制が導入され、今年は2年目を迎えます。昨年度は前年の急な改革であったため、十分な広報活動が展開できなかったため、コース制の導入を知らずに入学された方も多くいらっしゃったかもしれません。しかし、今年度に入学者の方々は、この点を十分ご存じの上で選択されたことと思います。コースへ進むのは2年次ですが、1年次の1月にはコース説明会とコース選択の希望調査と調整が行われます。1年次での選択は時期的に早いかもしれませんが、1年次の間に学部基礎科目などを修得しつつ、また、出口(将来の進路)を考えながら、





異文化社会での自律した生活にもあると強く感じました。短期留学(3週間の英語研修とホームステイ)もあります。皆さんも、ぜひ様々なチャンスを活用し、香川大学での生活を謳歌してください。

次は、猿回しのことです。芸をする猿の場合、先生は彼らを褒めて叱って仕込みます。これが、にわか仕込みです。以前本で知ったのは阿登夢という学習する猿でした。彼は人前での芸は苦手ですが、その気になると高い棒のうえで直立という難しい芸をするのです。その顔は誇らしげです。先生は彼の自発性のもとに学ばせており、本仕込みといわれます。私には、裸のサル(ヒト)の教育を考える意味でとても興味深いものでした。

人間生活の基本は身近な個人的空間ですが、そこを離れて社会的空間で活動することが重要です。現実社会や異文化との接触を通して自らの世界を拓けて欲しいと思います。教職員、在学生一同、新入生の皆さんとのこれからの様々な交流に期待しています。



ービス業など民間企業を中心として、法曹界や学界にも皆さんの先輩を送り出しています。近年、法科大学院進学者や司法書士・税理士などの専門資格取得者も着実に増えてきました。学生と教職員がそれぞれの力を結集して学問・研究、そして課外活動に取り組んできた成果であると自負しています。

新入生の皆さんを、これから専門的「基礎力」養成を重視した二つの専門教育コース(法律基礎コースと社会設計コース)と4年間の徹底した少人数ゼミナール教育が待っています。多彩な教養教育科目の勉強、インターンシップやサークル・課外活動の経験が加わって、君をきっとブラッシュアップしてくれるはずです。"君もさりと光ろう"



コース選択のための準備をしていただければと思います。

ところで、大学での勉学は、これまでとは異なり、自主的に行うことが要請されます。積極的に新たな学問分野に挑戦していただきたいものです。その場合も、これまで培われてきた基礎的な知識・理解が大きな影響を及ぼします。それを学んでいないから授業ではそのあたりから入ってもらいたい、ということではなく、必要と思われる科目については自ら学んでいく、という姿勢を持っていただくことを希望します。

また、大学生活では、自らが自主的に使える時間が大幅に増えます。この自由な時間をどのように使うのか。それによって大学生活の満足度も大いに異なったものとなるでしょう。目的を持って、勉学だけではなく、サークルや部活動に、インターンシップに、そして、可能ならば海外へと、生活の、活動の範囲を広げていただきたいものです。

共通科目や経済学部で学んだ基礎的なそして専門的な知識と、大学生活の中で獲得されるであろうより広範囲にわたる経験とをリンクさせながら、4年後に大きくはばたいておられることを祈念いたします。





部局長から一言

「新香川大学生に贈る」



医学部長
田港 朝彦

香川大学に入学された皆さん、おめでとうございます。

これから人生の春を迎える皆さんにとって、この時期を大学で過ごすことは、皆さんの人格を形成する上で重要な意味があると思います。

皆さんが大学でやるべきは、高等学校までのように一方的に教えられる勉強や、解答付きの問題を勉強するのではなく、「自ら求め、自ら考える」ことです。専門分野の知識を習得する努力をするのは当然ですが、大学は職能教育だけをする場所ではありません。具体的な知識の習得だけでなく、根源的な事象の成り立ちから、普遍的な物の見方を学ぶための広い知識と深い教養を身につける努力をして頂きたいと思います。

大学教育で欠けているのは、物事を計画から実践に移す、行動のための訓練



大学という宇宙の中で



工学部長
伊藤 寛

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

さて、皆さんの人生で大学生活は、最も変化に富んだ多くの経験をさせてくれるところです。皆さんの人生を入れる器は年齢と共に大きくなります。その中で様々な出会いが大学時代に訪れることになるでしょう。それは、今はまだ見知らぬ友達や恋人であったり、人生の進路を決める本や学問であったり、世界を放浪するチャンスを与えてくれたり、趣味の世界を切り開く機会であったり、結構魅力的な教員であったり、自分とは全く価値観の異なる様々な人々との出会いなど、数え切れないほどの出会いです。その最後の時期には、自分の将来の職業をどの様に選択するかなどに悩まなければならなかったりします。朱く燃える大人社会に飛び出すための準備期間、それを青春と呼びます。青春と呼ばれる時期の充実の程度で、その後の人々の人生の彩りを量ることが出来るのかもしれませんが。



「グリーンサイエンスへの招待」



農学部長
田島 茂行

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんに農学部を代表してお祝いを述べたいと思います。

今はリラックスして受験勉強から解放された雰囲気を楽しんで下さい。

のんびり旅行に行ったり、本を読んだりして溜めていたストレスを解放して下さい。

さて、これからの大学生活は社会へ巣立つ前に自分を鍛える一生に一度の重要な時間です。思いっきり有意義に過ごしてください。香川大学は皆さんがやりたいことを発見し、自己鍛錬するための企画が色々詰まった夢舞台です。大学を出てから何をするか、考える時間を十分にとってください。受験勉強のように性急に答えを求めず、じっくりと時間をかけ、自分の考えを煮詰めて行くことが大切です。短期海外留学など今しかできない事をチャレンジするのもいいでしょう。





であると言えるでしょう。これを補うためには、スポーツや文化系のサークル、その他ボランティア活動など課外活動を奨励したいと思います。皆さんはこのような活動を通じて良い友人関係を作り、その上で国内外の他大学の学生と交流をし、自分の世界を広げる努力をして頂きたいと思います。課外活動に自覚的・積極的に参加し、皆さんの学生生活が充実したものとなることを期待します。

皆さんが社会に出てから遭遇するであろうさまざまな難問の解決のためには専門知識だけでなく、広い視野、深い思考が必要となります。「自ら求め、自ら考える」習慣によってのみ問題の根本的な解決や、追隨的でない独創的研究成果を挙げる事が出来るのです。

皆さんと香川大学において大学生活を共に過ごせることを嬉しく思うとともに、皆さんの将来に期待します。



しかし、この様なさまざまな出会いも、目に入らない人にとっては平凡な学生生活でしかありません。ただ何も見えず、気付くこともなく過ぎ去って行きます。見る目とはこの場合、積極的に肯定的な人生観です。同じ4年間を漫然と過ごすか情熱的に過ごすかは人生の分かれ目です。特に、大学時代の友達は生涯の友達になる可能性が極めて高いといえます。それは大人でありながら利害関係なしでできる友達だからです。また、これまでの生活では経験しなかった多感な、複雑で共通な意識を共有しているからです。彼らがまた様々な目を与えてくれます。

4年間という時間は短い時間です。時空の1点に過ぎない1人の人間ですが、皆さんの意識の世界は無限の世界を構成しています。この世界をどう描くかは皆さんの責任です。合理的で美的に過ごすか、又は暗く醜悪な世界を過ごすか、全て皆さんの心の持ち方によります。このために大いにさまよってください。大学は常に皆さんが人生を切り開くための手助けをしようとしています。大学という宇宙を有効に使って、大きく羽ばたくことを期待しています。



農学部は創設以来100年の歴史を持ち、食料生産を中心としたバイオ産業を担う人材を養成し、農業技術開発や生命バイオテクノロジー研究で多くの実績を上げてきましたが、世界の農業は今、生産、食糧供給に大きな影響が出る地球の温暖化に直面しています。京都議定書が1997年に採択されてから10年、地球気候に関する政府間パネル (IPCC) 第4次答申は今年の2月に地球の温暖化が予想を超えた速度で進行していることを報告しました。

近年、地球生命環境を理解し維持するための科学をグリーンサイエンスと言うようになりましたが、我々は食料生産と両立しながら、美しい地球を維持するグリーンサイエンスを農学部で推進するよう努力しています。皆さんが社会へ巣立つ時には、様々な分野の専門家の目で地球の海、大地、大気を守ることが出来るよう、大学という舞台の上で自分を磨き、チャレンジを繰り返して欲しいと思います。





部局長から一言

「学びと絆を」.....



地域マネジメント
研究科長
井原 理代

ご入学おめでとうございます。香川大学のそれぞれに特色ある各学部、大学院に希望を持って入学された皆さんに、大学院地域マネジメント研究科スタッフ一同、心から歓迎いたします。

地域マネジメント研究科は、平成16年4月、中四国地域初のビジネススクールとして開設された、香川大学の文字通り特色ある専門職大学院です。専門職大学院は、高度専門職業人の養成を目的とする新しい形態の大学院で、本研究科で養成を目指すのは、地域活性化を先導する中核的人材であり、企業や行政、NPOなど地域の様々な場で中核となるリーダーです。

そのために、本研究科の教育カリキュラムでは、理論と実務の融合により、マネジメントやマーケティング、また地域政策等に関する知識を培い、戦略を構築する能



「住民を支える法曹に」.....



連合法務研究科長
中山 充

ご入学おめでとうございます。期待ふくらむ新入生の皆さんに、連合法務研究科を代表して、お祝い申し上げます。

連合法務研究科は、法曹(弁護士、裁判官、検察官)を養成する教育をする法科大学院です。香川大学の教員と愛媛大学の教員とが一緒になった連合組織であり、「四国ロースクール」とも呼んでいます。学生は、主に香川大学の幸町キャンパスで学びますが、裁判所や弁護士事務所などに出かけて実務を体験したり、夏休みに愛媛大学で集中講義を受けることもあります。

20名の専任教員と多数の法学部教員や実務家が、「幅広い教養と豊かな人間性を基礎に十分な職業倫理を身に付け、親身になって地域住民の生活を支える法曹」を養成するために、1学年定員30名の少人数の学生を手厚く丁寧に指導し、双方向・多方向形式の密度の高い教育をしています。



「熱い思いをいつまでも」.....



附属病院長
長尾 省吾

新入生の皆さん、香川大学へ入学おめでとう。医学部附属病院を代表して心からお祝いいたします。

医学部に入学した学生さんの9割以上は将来、臨床医となって診療に携わりますが、基礎医学領域で研究をされる方、保健・行政などの医療行政に進まれる方もいます。今、医学を志しスタートラインに立った諸君は、心身ともに病める人に貢献をしようと熱い思いでいっぱいでしょう。入学試験の面接の時に、諸君の医学への情熱をひしひしと感じました。先輩としてお願いしたいのは、今の思い(志)情熱をいつまでも抱いてほしいことです。6年間の学生生活では、多くの講義、基礎実習、患者様を中心とした臨床実習があり、時には疲れ果て、時にはその目的さえ見失う時があるかと思えます。その時には初心を思い出し、情熱の火を灯し続けてください。





力を養うことになっています。教員は香川大学経済学部からの移籍教員と新たに中央官庁や大手企業、シンクタンクから迎えた実務家教員、また県内外から各界を代表する多数の講師が就任し、その専門分野も多彩で、経営・会計領域のみならず、地域科学・公共関係領域の双方からなっています。授業では、ビジネススクールらしく、ケースメソッドにも力を入れており、そのケースとして地域企業や地域振興もとりあげて取り組んでいます。

このような学生生活のまとめとしてプロジェクト研究がありますが、この3月には、2期生が昨年に続き仕事上や地域に対する問題意識に基づき、様々なアプローチによる研究の成果を出し、MBAを取得して修了したところです。

新しく入学された方々も、本研究科のモットーである「地域新時代を拓くプロフェッショナルになる」を志に大いに学び、あわせて本研究科の宝ともいえる多様な社会人と進学者からなる学生さん同士の、また多彩な教員や講師との人的ネットワークを築いていただきたいと願っています。



連合法務研究科の学生は、法学部卒業生だけではなく、その他の学部の卒業生も多く、就職経験者も少なくありません。まず基本的な法律知識を修得し、次に、その知識を駆使する学習を積み重ねます。さらに、法律実務を少し体験する教育も受けて、原則として3年で修了します。その全員が法曹になることを目指し、24時間利用できる自習室とIT情報なども活用して、懸命に勉学に励んでいます。

その研鑽を積んで、連合法務研究科の第1期生は今年3月に修了し、5月下旬の司法試験に臨もうとしています。司法試験の結果は9月に発表されます。多数の合格者が出ることで、そして、1年間の司法修習を修めた後、その多くが弁護士として四国に戻って、親身になって地域住民の生活を支えてくれることを願っています。

新入生の皆さんがこれからの大学生活で得ることができるのは、勉学の成果はもちろんですが、それ以外にも多様なものがあります。多くの友人、教員、職員と積極的に交流し、また、大学のさまざまな施設・設備を効果的に活用して、充実した大学生活を満喫されることを願っています。それらすべてが、皆さんの今後の人生のかけがえのない糧になっていくでしょう。



最近の若い医師の中には、自分の生活を中心に考え、忙しく自分の時間がとれ、そして難しい患者様を扱う診療科を敬遠する者がいると聞きます。これが今、社会問題になっている医師の診療科偏在の一因ですが、諸君には、むしろ困難な手術に挑戦したり、難しい病気で苦しんでいる患者様に寄り添う医師になっていただきたいのです。

また、最近の社会風潮として、患者様のニーズが多様化し、高いレベルの結果を望まれます。医療には不確実なところがあって、いつも患者様が満足されるよい結果というわけにはいきません。その様な中で、患者様と医師との信頼関係を保つのは、最終的には医師個人の生き方に根ざした信念と温かい人間性です。6年間の学生時代に強健な肉体と人間愛を涵養する毎日を送っていただきたいのです。そのためには、どんなこと(クラブ活動、社会活動、趣味、その他)でも良いのですが、人との係わり合いを出来るだけもって、人間関係を琢磨し背骨の太い医学生として成長していただきたいと思います。

